

新岡垣風土記

第397回

藩政時代の糠塚村の絵図③

岡垣歴史文化研究会 入江 東樹

糠塚村の集落は、村の中心部に位置している。

当時の集落は、3つの小集落に分かれている。南側から、町、北原、榎坂である。現在の隣組は、南側から、南、村町、北原、寺の下、浜の根の5つに分かれている。

集落の家の標示が玄関の向き(方角)に合わせて、軒別に描かれている。軒数は89であり、現在の世帯数は159である。

以下、絵図の中の集落内に記されている建物などを紹介する。

① 祇園宮
現在は須賀神社といい、区の氏神様になっている。

② 真言宗正覚寺

祇園宮の東下にある。正覚寺の開祖の墓石が、公民館の裏側の丘陵に安置されている。明治5年に廃寺となった。

その後は、大日堂として大日如来を祀り、「遠賀川西四国88力所巡

り」巡礼所(札所)の1カ所になっていた。

現在、10月20日、区の「おくんち」の祭典が、この御堂で行われている。

③ 御米蔵

年貢米の倉庫で、各村に設置されていた。ここから芦屋と若松経由で、大坂に運ばれたという。

この付近の小字は、「蔵の上」となっている。

④ 西往還筋

前回紹介した唐津街道である。糠塚では、「往還」と呼んでいた。絵図には、松並木が描かれている。

⑤ 天満宮

菅原道真(学問の神)を祀っている石の祠である。明治に入って須賀神社に合祀された。

天満宮は榎坂にもある。そのまま絵図の場所に残されている。

この2カ所の天満宮では、7月25日(菅原道真の誕生日)、村町と榎坂(寺の下と浜の根の合同)の隣

組でそれぞれ「天神ごもり」が行われていた。現在は25日に近い日曜日に行っている。また、⑤の天満宮付近は坂道になっていたため、天神坂といっていた。

⑥ 浄土宗西光寺

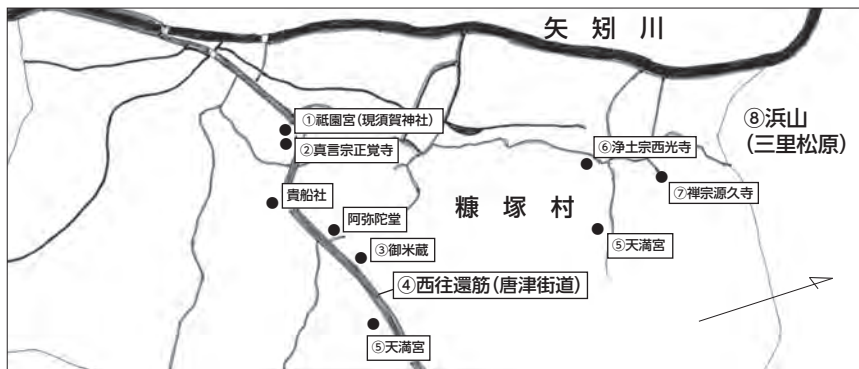
寛文3(1663)年に開山された浄土宗の寺である。本尊は阿彌陀如来である。

⑦ 禅宗源久寺

禅宗の寺で、高倉の龍昌寺の末寺だったという。明治5年に廃寺となった。その後、観音菩薩を祀る観音堂(観音様ともいう)となり、これも「遠賀川西四国88力所巡り」巡礼所の1カ所になっていた。

⑧ 浜山

三里松原のことは、浜山と記されている。松原は、かつて「岡の松原」や「垣崎の松原」とも呼ばれていた。



▲糠塚村絵図の説明

【訂正とおわび】 広報おかがき8月25日号に掲載した新岡垣風土記の内容に誤りがありました。訂正しておわびします。

■2段目6行目、3段目1行目・2行目・5行目 正:木屋瀬 誤:小屋瀬